



Be Professional

プロフェッショナルであれ



地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

地域の医療を担う誇りを胸に

急性期総合病院における

看護のプロフェッショナルとは、

高度な知識と技術、高い倫理観、

そしてチーム医療を推進する力を持つ人材のこと。

自律した看護師として、

この地域の医療を支える、

看護のプロフェッショナルでありたい。

Be Professional

プロフェッショナルであれ



病院 理念

いのちの誕生から生涯にわたって
地域住民の健康を支え、
頼られる病院であり続けます



看護部の6つの基本方針 POLICY

- 1 患者の思いを尊重し、意思決定を支援します。
- 2 根拠に基づいた知識・技術をもとに、最適な看護を提供します。
- 3 チーム医療推進における担い手となります。
- 4 専門職として自律した看護師を目指します。
- 5 人として成長し、豊かな人間性が育まれる看護部を作ります。
- 6 健全な病院経営に参画します。



看護部長挨拶

地域の中核病院としての役割を担う加古川中央市民病院は、33の診療科を有する600床の急性期総合病院です。周産期から小児、成人、高齢者に至るまで、様々な患者さんの命を守るため、看護師はチーム医療の一員として臨機応変に安心・安全な看護ケアを提供しています。常に患者さん目線に立ち、不安や苦しみをしっかりと受けとめ、ご本人やご家族がこれから治療をしていくうえで、よりよい意思決定ができるように支援していくことが、私たちの使命です。そのためには、絶えず学び、成長していくことが大切だと考えています。

看護部では6つの基本方針を掲げ、基礎知識の習得はもちろんのこと、看護師が専門職として自律し、豊かな人間性を育めるように手厚い教育とキャリア支援体制を構築している点が特徴です。新人研修をはじめとする看護基礎教育、認定看護師や専門看護師の資格取得支援、学会や各種研修への参加に加え、一人ひとりと向き合い、個人に合ったキャリアデザインを一緒に考えて形成しています。

さらに、ワークライフバランスの取り組みとして、バイタル測定機と電子カルテの連動やロボット搬送など最新システムの導入による業務の効率化、各種休暇制度や福利厚生、院内保育園の充実を図り、誰もが無理をせず、生涯にわたって安心して活躍できる環境づくりに力を注いでいます。

自ら考えて判断・行動したことが患者さんのお役に立ち、笑顔につながったときが、この仕事の醍醐味です。みなさん一人ひとりが自律した看護師になれるように、私たちはあらゆる努力をし、成長をサポートしていきます。

加古川市民病院機構 理事

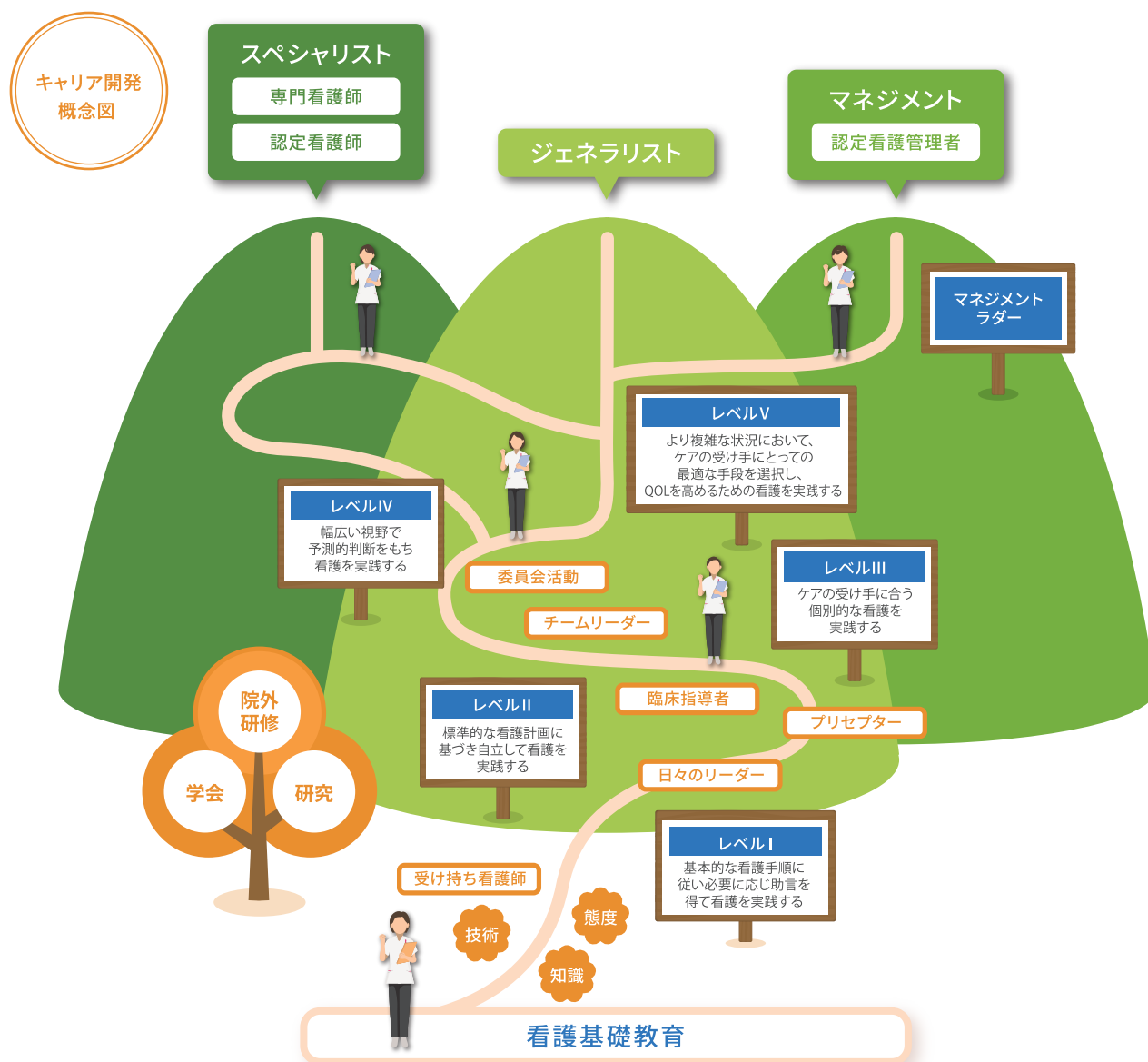
加古川中央市民病院 副院長・看護部長

花岡 澄代

教育制度

EDUCATION SYSTEM

豊かな人間性と倫理観を身につけ、
地域住民の信頼に応えられる看護職員を育成します。



〔教育専従〕

看護教育支援室に属する教育専従が、病棟の教育担当者と協力しながら研修の企画・運営を行います。当院の教育方針や教育目標のもとで新人研修からクリニカルリーダー研修まで携わり、高度急性期病院で自律した看護師として成長できる教育体制を構築しているのが特長です。教育専従が横断的に活動することにより、各部署での課題を早期に発見して取り組み、他部署と共有することで部署間の隔たりのない教育を実現しています。

看護教育支援室・教育専従

Support!

新人サポート体制

看護師としてスタートラインに立った
あなたの大切な1年間で、
病院全体で応援します。



Preceptor

H.A ICU-2

心がけているのは、些細なことでも質問できる雰囲気を
つくり、勉強面と精神面の両方を支援すること。相談を
受けたときは一緒に悩み、考えることがあり、私自身も
日々成長を実感しています。常に患者さんへの接し方や
手技を意識し、お手本になれる存在を目指しています。



Preceptee

Y.M ICU-2

患者さんへの対応に戸惑ったり、知識や技術が未熟で
不安な気持ちを抱えていますが、いつも気にかけてもら
い、指導を受けながら少しずつ自信につなげています。1
カ月単位で業務を振り返り、課題と目標を明確にして取
り組むなか、できるが増えると嬉しく感じます。

OJT / On-the-Job Training

教育グループ制度

当院では、プリセプター制度に加
えて、OJT (On-the-Job Training)
として、病棟の先輩看護師による
教育グループ制度があります。



先輩看護師による
サポート体制



プリセプティ
(新人看護師)



プリセプター
(先輩看護師)

若手看護師の声



クリニカルラダー研修があり、1年目
以降も教育体制が充実しています!

入職3年目 M.A

病院全体はもちろん、病棟ごと
の勉強会もあり、学べる環境
は万全です。

入職3年目 R.I

プリセプターと年齢が近いので相
談しやすく、気持ちを分かっても
らえるのが嬉しい。

入職3年目 M.A

医師はもちろん、多職種との連
携の機会も多く、チームワーク
は抜群です。

入職5年目 S.Y

私のために思い、指導してく
れた先輩。感謝しています!

入職2年目 A.W

新人ナースの 1年

Rookie Nurse

様々な研修や仕事、スタッフとの
出会いを通じて多くを学んできた
新人看護師の1年間を紹介します。

先輩たちの丁寧なサポートで 自分らしく働き、成長できる

K.S 外来3(救急外来、内視鏡検査室)

地域を支える総合病院で、救急医療に力を注いでいる点に
魅力を感じて入職。1年近く救急外来を担当し、現在は主に
内視鏡室に勤務しています。職場のみなさんに温かく見守っ
てもらい、私のレベルや個性に合わせたきめ細かな指導を通
じて、この一年間で自信が付き、成長を感じています。

8月

9月

10月

11月

プリセプターと半年間を 振り返り、目標を設定する

「プリセプター&プリセプティー会」では、この半年間にできたことや課題
を振り返り、後半に向けて目標を設定しました。最初は課題ばかりを考え
ましたが、プリセプターから「これでもできるようになったよ」と助言を受け、
自分で思っていた以上に成長していたことを実感できました。次の半年間
は、「重症患者さんへの円滑な対応」を目標に掲げました。

Point!



初心に立ち返り 気持ちを引き締める

Action!

入職から半年が経ち、仕事に慣れてきたころ、先輩に確認を取らずに自
分で判断してヒヤリとしたことがありました。どんな些細なことでも疑
問に感じたことは、その時に解決しておく必要があると実感しました。
気持ちを引き締めて、基本に忠実に行動することを徹底しました。



1年がスタート



Challenge!

現場では緊張してうまく行動できずに悔しい経験を

救急外来に配属後、まずは先輩の仕事を見学し、少しずつ患者さんの対応を行うようになりました。ある日、救急搬送の患者さんを受け入れるため、初めて先輩と一緒に事前準備を進めましたが、緊張してこれまで勉強してきた知識を活かした行動ができず、とても悔しい思いをしました。

4月

5月

6月

7月

入職時の新人研修で看護の基礎をしっかりと学ぶ

入職時は、同期の新人看護師が全員集まって看護の基礎について講義を受け、採血や点滴作成などの技術研修を行いました。薬剤師や臨床工学技士など、院内の様々な専門職の方々から幅広い知識・技術を学び、看護師としてのスタートラインに立ちました。



Start!

複数の患者さんの対応や夜勤業務ができるように

「一度で覚えられないのは当たり前」というプリセプターの言葉に励まされ、落ち着いて行動するように心がけました。救急外来は患者さんが集中することがありますが、1人目の患者さんの採血や検査の準備をし、状態を観察しながら、2人目の対応ができるようになってきました。6月からは夜勤も始まりました。



12月

1月

2月

3月

苦手な分野を克服し先輩にも褒められる

私の目標はリーダーにも共有され、重症患者さんを任せてもらえる機会が増えました。また、この頃から小児患者さんを受けもちはじめました。小児は成人とは看護ケアが異なるため、年齢によって対処方法が違うことに苦手意識を感じていました。しかし、あるお子さんの救急対応のときに、先輩から「丁寧に声をかけていたね」と褒めてもらい、大きな自信につながりました。



新たに内視鏡室も担当 まとめの会で1年の成長を実感

2月からは内視鏡室の業務を新しく担当することになり、これまでとは異なる経験を通じて知識と視野がぐんと広がりました。また、目標に掲げていた重症患者さんや小児患者さんの対応ができるようになりました。1年を振り返る「まとめの会」では、自己の成長を感じて嬉しくなりました。



2年目の目標

患者さんご家族の気持ちに寄り添える看護師を目指し、仕事の幅を広げていきたいと思っています。

Step up!



プロフェッショナルインタビュー

Professional Interview

地域の医療を支える総合病院として
幅広い診療科を持つ当院には、
豊富な知識と技術、資格を身につけた
看護師たちが最前線で活躍しています。
そんなプロの仕事を紹介します。

Professional
Interview

OI

病院を感染症から守り 地域の在宅医療にも貢献

感染管理認定看護師 T.H

医療安全管理部 院内感染対策室 副室長／看護師長

産婦人科・小児科病棟への異動が、キャリアのターニングポイントになりました。特に小児科は、インフルエンザや胃腸炎といった感染症や、予防接種などの予防医学に携わる機会が多く、専門的に学びたいと思っていたとき、医師から感染管理認定看護師の資格取得を勧められました。院内感染対策室では、患者さんや医療スタッフを感染症から守るため、感染症の発症データに基づいて現状や課題を分析し、院内の清掃や空調管理など設備面も含めて感染症予防対策を推進し、その評価・改善・指導を実施しています。また、保健所などの施設と連携しながら、地域の感染対策にも関わっているため、新しい分野を学ぶことで知識と視野が広がり、大きなやりがいを感じています。新型コロナウイルス感染対策はもちろんのこと、高齢化が進み、在宅医療のニーズが増加するなか、感染管理認定看護師として重要な使命を担っていきたいと思います。

Pick up!

【データで見るプロフェッショナル】

専門看護師数



/ 5人

がん看護、家族支援、精神看護、慢性疾患看護

認定看護師数



/ 19人

がん化学療法看護、がん放射線療法看護、感染管理、救急看護、手術看護、集中ケア、新生児集中ケア、摂食・嚥下障害看護、糖尿病看護、認知症看護、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、慢性心不全看護、慢性呼吸器疾患看護

男性看護師



/ 50人

看護師の男女比では圧倒的に女性看護師が多いのが現状ですが、男性看護師も当院では活躍中です。

患者さんのあらゆるつらさに 対応できる緩和ケアのプロに

緩和ケア認定看護師 S.M

看護管理室

緩和ケアに興味を持ったのは、内科病棟に勤務していたときです。腹水の貯留に伴うつらさを和らげるために体をさすったところ、「触らないでほしい」とおっしゃった患者さんの気持ちや状況を学びたいと思い、認定看護師の資格を取得しました。現在は、病棟からの依頼を中心に、患者さんとご家族のつらさを和らげるサポートを行っています。医師や看護師、心理士など多職種と連携し、痛みをはじめとする症状や気持ちのつらさに対し、薬物療法だけでなく看護とケアを考えて実践します。その結果、つらさが軽減し「楽になったよ」と患者さんの笑顔がみられたときに喜びを感じます。この仕事を通じて、全人的な視点を持つことで、患者さんへの理解がより深まりました。患者さんやご家族の療養を支援するための、がん看護外来をスタートさせた当院で、看護師だからできることを考え、よりよい緩和ケアを提供し続けたいと思います。

家族への看護ケアの重要性を 医療スタッフに普及させたい

家族支援専門看護師 N.H

10階西病棟(眼科・耳鼻咽喉科・脳神経外科・脳神経内科・皮膚科)／看護師長
生命危機にある子どもの家族への関わり方に困難を抱え、家族への関わり方を体系的に学びたいと思ったことが、家族支援専門看護師を目指したきっかけです。大学院で患者さんだけでなく、ご家族をどう理解して関わっていくのかを学問として学びを深めたことで視野が広がり、モノの見方が大きく変わりました。医療者は患者さんを中心に家族を含めてケアを行います。家族の想いが置き去りになったり、退院に向けて家族に新たな役割が増えることもあり、患者さんも家族も生活が立ちいかなくなることもあります。私は専門看護師として教育を主な役割とし、院内で倫理に関するラダー研修を行い、院外では他の病院や大学、地域の関連団体に対して研修を実施しています。このような普及活動を通じて、一人ひとりが家族ケアの必要性に気づき、自ら家族看護を実践できるようサポートしていきます。

04

妊婦さんと出産に向き合い チームでよりよいケアを実践

助産師 T.N

産科病棟・産婦人科外来

実習先で初めて分娩に立ち会い、若くして頑張るお母さんとすくすく育つ赤ちゃんを目の当たりにしたとき、分娩や産後ケアに携わりたいと思うようになりました。当院の産科を選んだのは、ハイリスクの妊婦さんを受け入れ、正常出産は助産師主導で行う院内助産の方針のもとで成長していきたいと思ったからです。助産師は、外来の定期検診から妊婦さんと関わり、保健指導や分娩介助、出産後の母子ケアを通じて信頼関係を築いていきます。出産に不安を抱えている妊婦さんへの精神的なケアを心がけ、チームでよりよいケアを提供して笑顔で退院していく母子の姿を見たとき、この仕事に携わってよかったと心から感じます。豊富な知識と経験を持ち、常に目標に向かって積極的に取り組む先輩方をお手本にスキルアップを図る一方で、外来リーダーとして全体に目配りをし、外来と病棟の連携を取りながら自ら発信できる助産師を目指しています。



05

重症患者さんの命をつなぎ 円滑に生活できるように支援

O.N ICU-1

命を救うために集中治療を行うICUでは、病状が急変しやすい重症患者さんを受け入れているため、常にアセスメントをして医師に報告・連絡を行うことが大切です。また、急な状況についていけないご家族への精神的なケアも看護師の大きな役割のひとつです。一緒に危機的状況乗り越え、患者さんがリハビリで元気に歩いている姿やご家族の笑顔を見たときが、何よりも嬉しい瞬間です。知識や技術は、すぐに身につくものではありません。しかし、経験は未熟でも相手の立場になり、患者さんとの接し方や医師との打ち合わせなどを工夫して円滑にコミュニケーションを図ることはできます。医療は信頼関係がなければ成り立たないもの。看護師として患者さんと医師の両方から信頼され、その間をつなぐことのできる存在を目指し、一つひとつの業務に責任を持って取り組んでいきたいと思っています。



患者さんの不安に寄り添い、 幅広い診療科の手術に対応

T.S 手術部

手術室の看護師は、手術前の患者訪問から器械出し、術後のフォローまで携わります。その中で心がけているのは、一人ひとりの個性を考え、安全第一に徹することです。患者さんに関する情報を医師や麻酔科に伝え、手術に必要な物品・器械をそろえる調整役として安全で円滑な手術を支援する一方で、患者さんとの会話を通じて様々な思いを引き出して共感し、その人に合った説明の方法や声かけを行っています。不安を抱えていた患者さんが、術後に安心した表情をされたり「わかりやすく説明してくれてありがとう」と感謝されたときに、この仕事への誇りとやりがいを実感します。私はキャリアアップを目的に総合病院である当院に転職し、外科や心臓血管外科、産婦人科をはじめ、幅広い診療科の手術を経験してきました。今後は専門性を高めるために認定資格を取得し、部署全体のレベルアップに貢献したいと考えています。



安心できる入院生活の提供と 看護師の成長支援を目標に

呼吸認定療法士 C.A

9階西病棟(呼吸器内科・呼吸器外科・歯科口腔外科)／副師長

外科や内科、産婦人科・小児科などの診療科を経験し、2年前に現在の病棟に配属されました。呼吸認定療法士の資格を取得して専門知識を身につけ、患者さんの退院後の生活を視野に入れた最適なケアを提供する一方で、医師のニーズを先取りした行動を心がけ、常に新鮮な気持ちで取り組んでいます。急性期の病棟では、入退院も多く、患者さんの病状が急変することもあります。副師長として看護管理にも携わる私は、忙しい日々を過ごしていますが、ときには患者さんに寄り添い、人生に深く関わっていただけることにやりがいを感じます。これからも安心・安全な入院生活を提供するとともに、看護師の育成と働きやすい環境づくりに力を入れ、スタッフの充実した仕事と生活をサポートしていきたいと思っています。

OFFの日の過ごし方

子どもたちがやりたいことは全力で応援し、ピアノや習字、スイミングなどの送迎を中心に日常生活もバタバタと過ごしています(笑)。休日に勉強をみたり、ピアノの演奏を聴いていると子どもの成長を感じ、とても幸せな気持ちになります。



Smile!



人事部 採用担当(加古川中央市民病院 3階)

〒675-8611 兵庫県加古川市加古川町本町439番地

TEL:079-451-8602(直通) FAX:079-451-5548

<http://www.kakohp.jp/section/nurse/>

加古川中央市民病院 看護部

検索

